資料　1

久屋大通魅力アップ事業　基礎調査

概要版（素案）

（2008. 3. 26）

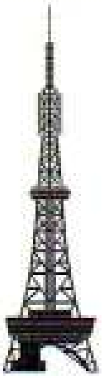
名　古　屋　市

はじめに

■調査の目的■

・久屋大通は、都心の栄地区を南北に貫く延長約 1.7km の道路で、戦災復興事業で計画された 2 本の 100m道路の一つとしてつくられたものである。道路の中央には久屋大通公園が整備され、名古屋を代表する都心の公園として多くの人々に親しまれている。

・この久屋大通の公園及び歩道空間について、更なる魅力アップを図ることを目的に、利用実態調査などの現況調査、先進事例調査など魅力アップのための基礎調査を実施するものである。



久屋大通公園の歴史

・昭和 20 年、戦災復興事業の中で火災等を防止し避難所になる目的を持つものとして 2 本の 100m道路を計画。久屋大通は昭和 24 年より整地工事が始まり、昭和 30 年頃には久屋大通の形態ができた。名古屋テレビ塔の開業は昭和 29 年。

・久屋大通の中央部分は公園的な整備が行われることとなり、沈床花壇や芝生広場ができた。

・昭和 45 年に都市公園法に基づく公園として共用を開始した。

・昭和 53 年には地下駐車場の整備とあわせてテレビ塔周辺の整備が行われ、さらに姉妹都市から送られたモニュメントを設置する国際親善広場が相次いで完成した。

・昭和 58 年に久屋大通地区が都市景観整備地区に指定され、都心にふさわしい公園として再整備するため、広小路通以南についてコンペが実施され、復興事業収束モニュメントと光の広場を整備するとともに、久屋広場、エンゼル広場の改修が行われた。

・平成 14 年には、旧愛知県文化会館と旧 NHK 名古屋放送会館、旧栄公園の敷地を入れ替え、立体公園オアシス 21 が完成した。

調査概要及び目次

現況調査

久屋大通公園の現況・利用状況

- イベント利用状況調査……………2 ページ
- 通行量等調査……………………3・4 ページ
  - ■歩行者通行量
  - ■東西横断自動車交通量
  - ■公園の利用実態
- 樹木調査……………………………5 ページ
- 駐車場利用状況調査………………6 ページ
- 寄付物件調査………………………6 ページ

久屋大通公園に対する意向

- ヒアリング調査……………………7 ページ
- ネット・モニターアンケート………7 ページ

関連調査

- 沿道土地利用調査…………………8 ページ
  - ■沿道の土地利用
  - ■久屋大通でのオープンカフェ

魅力アップ調査

- 先進事例の整理……………………9 ページ
- 課題の整理…………………………10 ページ
- 方策の検討…………………………10 ページ

⇒ 基本方針（素案）の検討

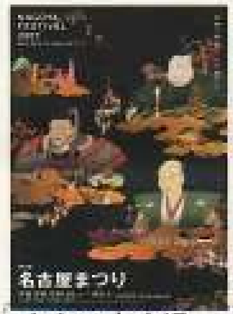
（別途リーフレット参照）

現況調査　イベント利用状況調査

・久屋広場を中心に桜通以南での利用が多い。

・桜通以北はほとんど利用されていない。

・にっぽんど真ん中まつり（８月）、名古屋まつり（１０月）に多くの集客がある。



リバーパーク
豊かな緑を生かして結婚式に利用されている。平成 18 年度は 13 件。

いこいの広場
名古屋芸術の杜をみんなでつくる会がひまわり展を開催。

もちの木広場
休日は個人コンサートが行われることが多い。

オアシス 21
地下の銀河の広場で年間 230 日程度イベントに利用されている。栄公園振興(株)が一括して借りており、申込を受け付けている。

久屋広場
イベント広場と位置づけられており、使用料は無料。年間でイベント 50 日、個人コンサート 25 日程度利用されている。

開催場所別開催日数　（平成 18 年度）

現況調査　通行量等調査

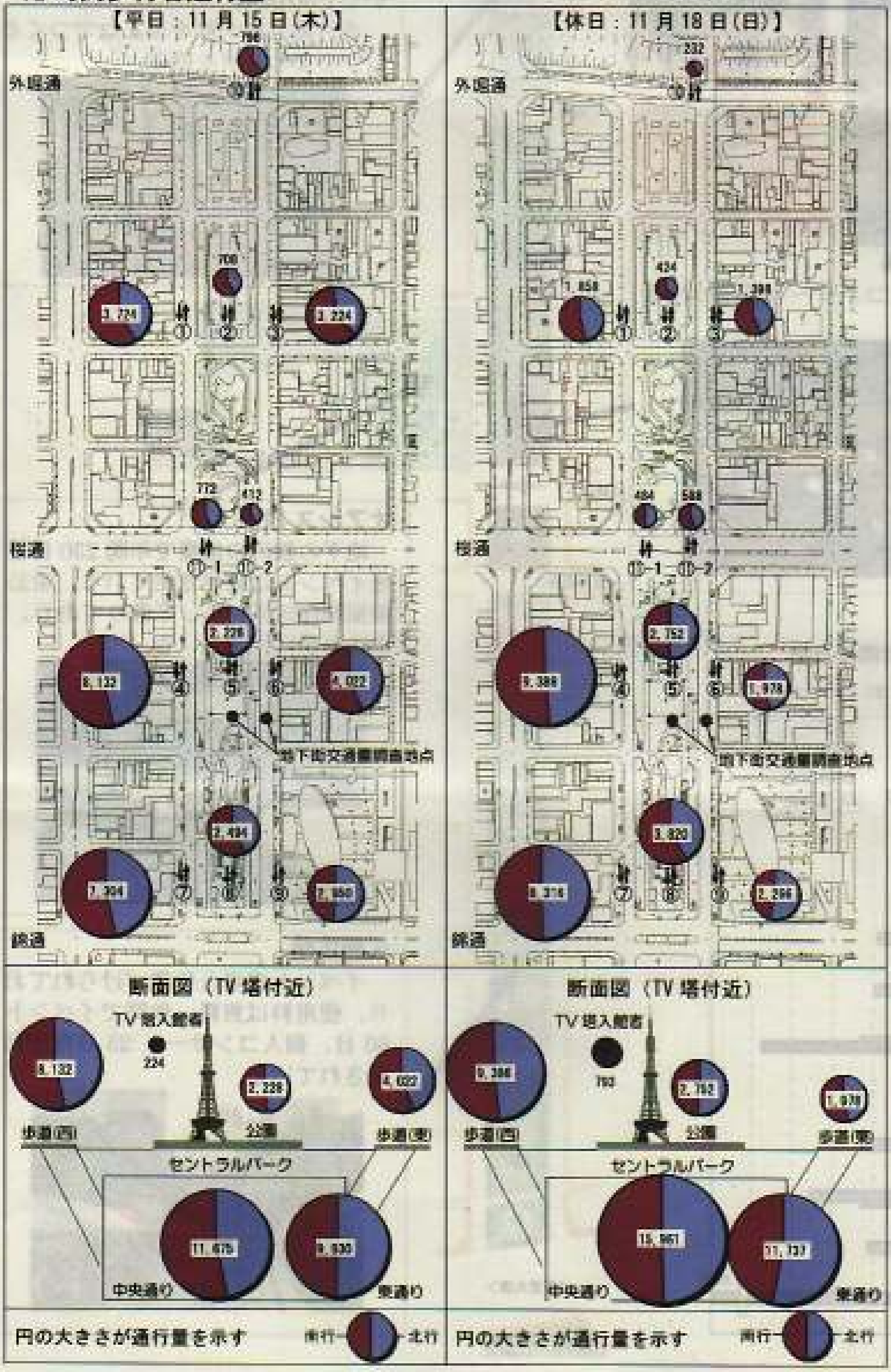
■歩行者通行量■

- 桜通以北の公園内の歩行者通行量が少ない。
- 桜通以南の公園内の歩行者通行量は平日よりも休日の方が多い。
- テレビ塔付近の歩行者通行量は地下の方が地上よりも7～8倍も多い。

調査概要

【調査日時】2007年11月15日（木）
　　　　　　11月18日（日）
【調査時間】9:00～21:00（12時間）
【調査箇所】13箇所
【調査項目】歩行者通行量（12箇所）
　　　　　　自動車の断面交通量（1箇所）
　　　　　　利用実態

12時間歩行者通行量



注：
セントラルパークの数値は(株)セントラルパークによる同日同時間帯の調査結果
TV塔入館者の数値は名古屋テレビ塔(株)による同日のテレビ塔展望利用者数

■東西横断自動車交通量■

・シドニー広場とリバーパークの間の道路の12時間交通量（東行）は、平日2,456台、休日978台。平日は休日の2.5倍。

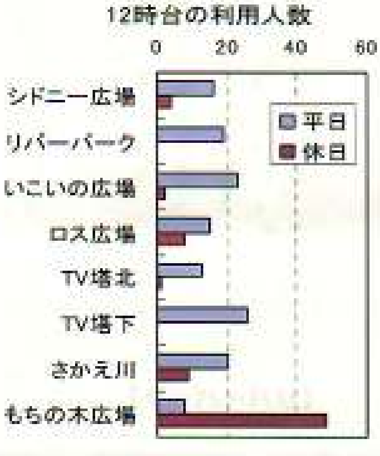
・久屋町線のピーク時（平日3,019台(16時台)、休日2,581台（17時台）と比べ、平日は1/10、休日は1/20程度の交通量である。(久屋町線の数値はH17の交通量調査より引用)

調査地点

■久屋大通公園の利用実態■

・平日は12時台に昼食や休憩に利用するものが多い。

・休日は個人コンサートが行われるもちの木広場の利用者が多く、時間とともに増加しているが、その他のゾーンの利用は多くない。また、平日のように12時台に限定して利用が多くなるといった現象もみられない。



昼休みにジョギング
(平日の12時台)

ベンチで昼食(平日の12時台)

カフェ利用（休日の15時台）

モデル撮影（平日の11時台）

個人コンサートの鑑賞
(休日の13時台)

現況調査　樹木調査

・シドニー広場、リバーパークについては緑豊かな空間として評価される一方で、うっそうとして暗く、見通しが悪いという声もあり、「樹木の健全度」を市民とともに調査した。

・過密気味に植えられた樹木が、現在では樹勢競争の結果が現れている。特にシドニー広場において顕著である。リバーパークも今後はこの傾向が強まると予測される。

・健全度の判定では４割弱のケヤキに問題点が有り、景観面に配慮しながら樹勢の弱い樹体の間引きと併せて剪定や土壌改良等を行い、ケヤキの樹形・樹勢回復を行い、ケヤキ林の再生の検討が必要。

調査概要

地域住民等に参加を呼びかけ、樹木医のアドバイスを受けながら、市民が調査した。

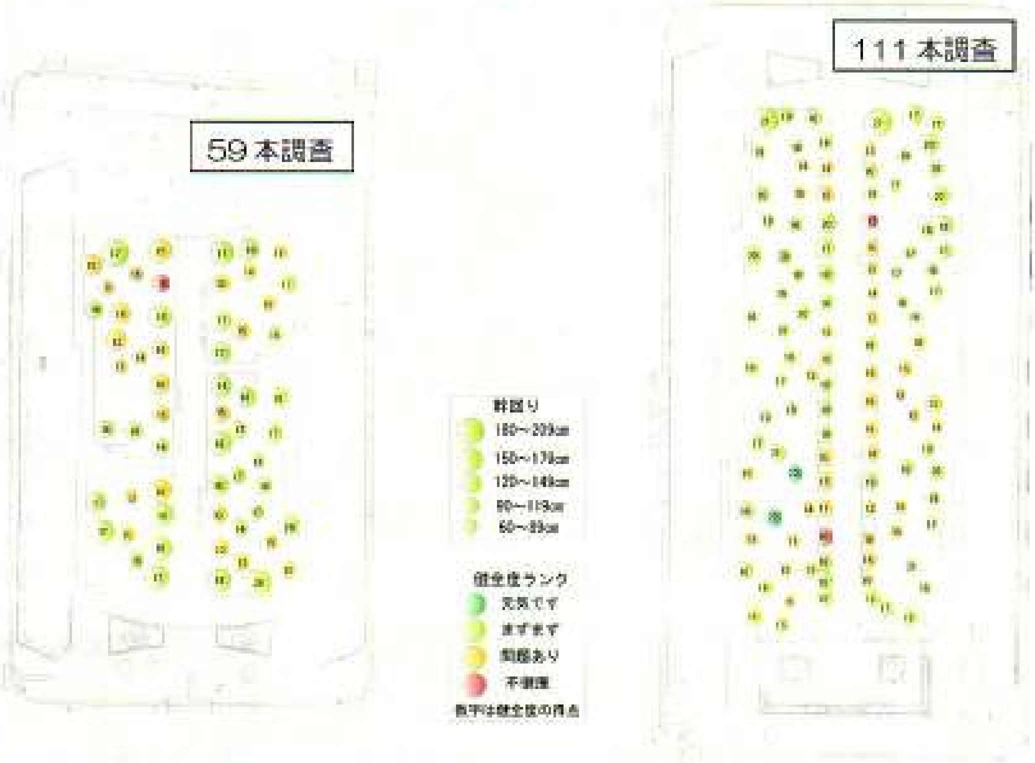
【調査日時】2007年11月25日（日）

【参加者】地元住民・市民団体等22名、名城大学15名、行政他11名

【調査項目】樹種、成長度、健全度

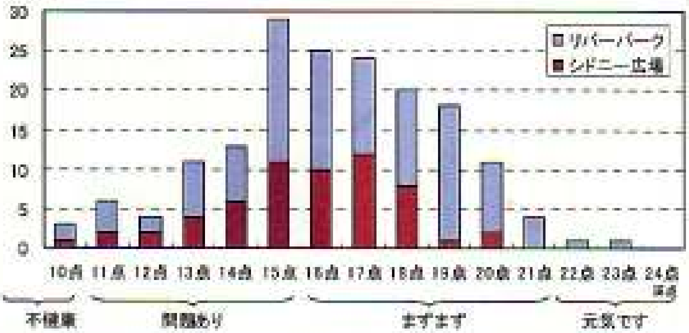
【調査本数】ケヤキ170本

シドニー広場、リバーパークのケヤキの健全度



【シドニー広場】　【リバーパーク】

健全度別分布状況

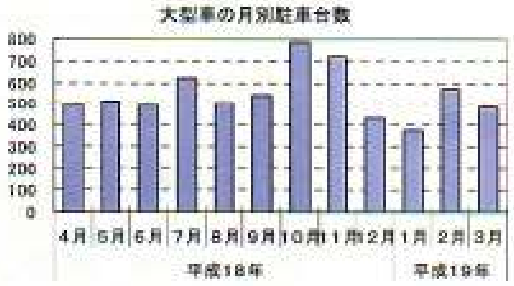


現況調査　駐車場利用状況調査

・テレビ塔北側に駐車場があり、公園としての空間が分断されている。

・この駐車場は観光バスの利用が多く、年間6500台、1日平均で18台の利用があり、秋の観光シーズンの利用が多い（1日平均25台）。

・その他、普通車・業務車で年間２万台の利用がある。この数値はセントラルパーク駐車場（570台）の年間利用台数約40万台の5%程度にあたる。



久屋大通公園駐車場

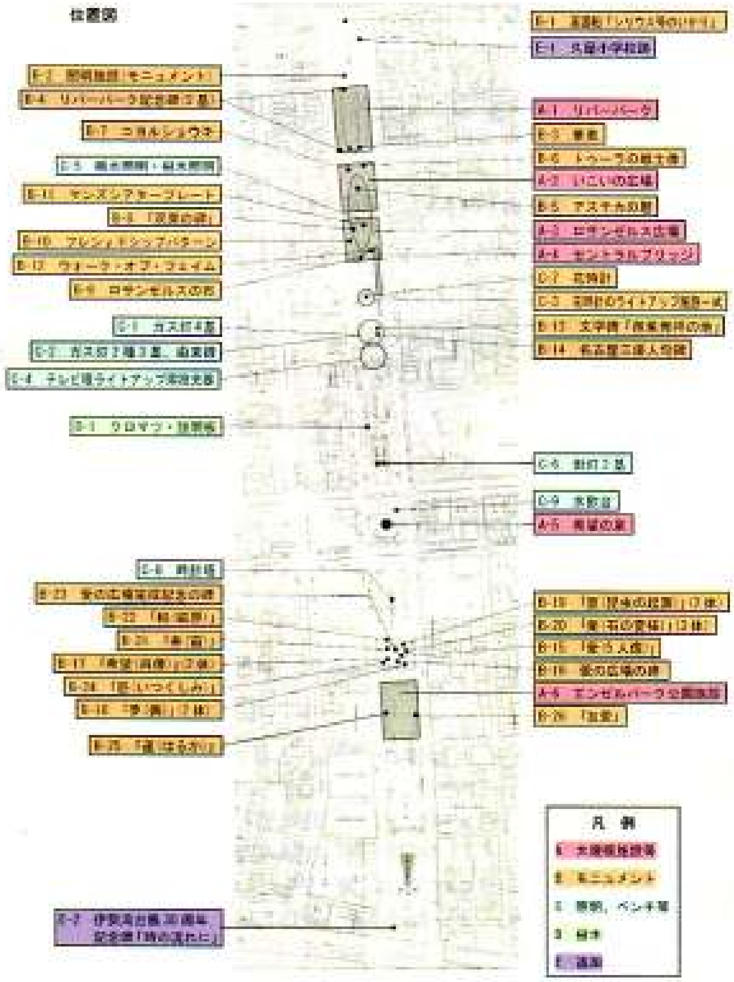
現況調査　寄付物件調査

・久屋大通公園は名古屋を代表する公園であることから、様々な寄付物件が設置されている。

・リバーパーク、いこいの広場、ロサンゼルス広場、エンゼル広場は造成費の寄贈によってできたものである。エンゼル広場はその後1994年に改修が行われているが、その他のものは整備後30年が経過し、老朽化している。

・なお、桜通以北では姉妹都市関連のモニュメント、愛の広場には彫刻が多く寄贈されている。

シャンゼリゼ通りとの友好提携を記念して贈られた街灯（2基）



現況調査　ヒアリング調査

調査対象
- 中土木事務所
- 栄公園振興(株)
- (株)セントラルパーク
- 名古屋テレビ塔(株)・テナント
- NPO法人久屋大通コンソーシアム
- 名古屋大通連合発展会
- 名古屋市立第一幼稚園
- 久屋大通オープンカフェ推進協議会

■久屋大通公園の現状・問題点

・住民と接近間のある公園でない。樹木が密集し暗い。

・水景施設が老朽化している。さかえ川、ロサンゼルス噴水は水道水を利用しており、水道代負担が大きい。

・公園の魅力アップを考えるとテレビ塔北の駐車場はここにない方がよいのでは。

■イベント開催の現状・問題点

・電源設備があるのは久屋広場のステージのみで、その他は発電機を持ってくる必要がある。

■久屋大通公園に対する要望

・テレビ塔あっての久屋大通であり、テレビ塔と公園の役割を見直すべき。

・全天候型のステージがリバーパークあたりにできるとよい。

・幼児が遊べるようなものがあるとよい。

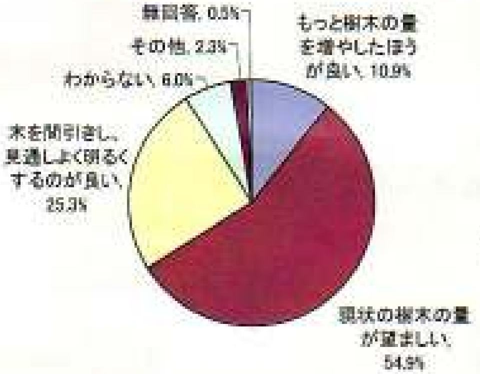
・バスターミナル、駐車場を移設した方がよい。

・イベント実施にあたり、企業にスポンサーになってもらうため、企業名が出せるとよい。屋外広告物や都市公園の広告などの規制緩和が必要。

ＮＰＯ法人久屋大通コンソーシアムが 2007.12 に開催したイルネーション。将来は全国から人が集まる公園の目玉となるようなものにすることを目指す。

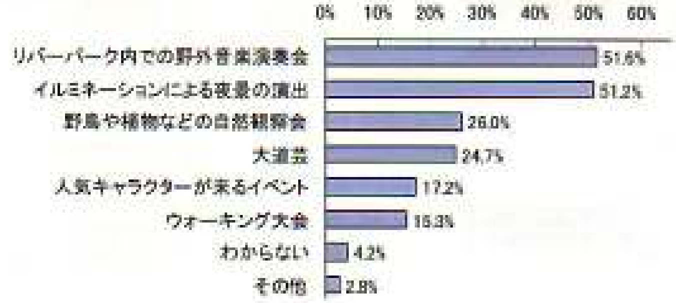
現況調査　ネットモニターアンケート調査

「リバーパーク周辺」で望ましいと思う樹木の量



「テレビ塔・もちの木広場周辺」にあれば良いと思う施設

「リバーパーク周辺」「テレビ塔・もちの木広場周辺」にあれば良いと思う行事



調査概要

公募による市民モニターに対し、インターネットを活用した調査を実施

【調査期間】

2007 年 12 月 12 日～19 日

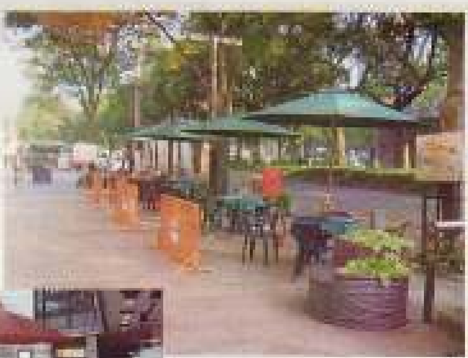
【回収率】

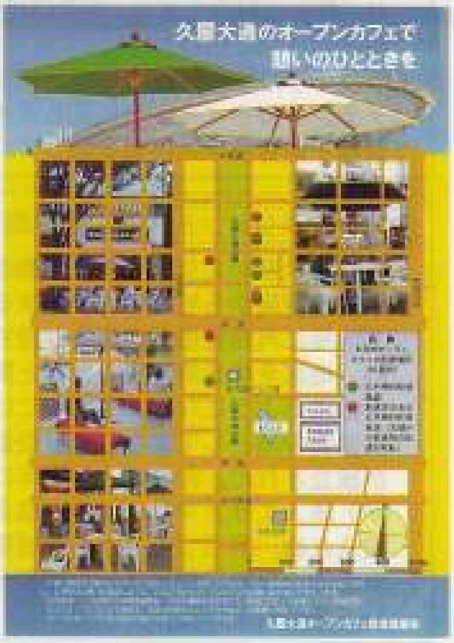
調査対象 499 人に対して有効回収数 430 人、有効回収率 86.2％

現況調査　沿道土地利用調査

・久屋大通公園の沿道は商業・業務系の利用が多く、住宅系や駐車場系は少ない。

・久屋大通では 2000 年より、オープンカフェ設置の実験にとりくみ、今年度より年間を通した取組みとして展開している。今年度は10箇所のオープンカフェが設置され、うち５ヵ所は飲食店のある公共無料休憩施設となっている。





大通公園の事例　大通公園（札幌市）

・札幌市の中心部。延長約 1.5km。両端にテレビ塔、札幌資料館があり、人の流れが生まれている。ただし、公園を横切る道路によって分断されており、この点では久屋の方が連続性がある。（道路廃止は 1 箇所）
・大通りの幅員は約 100m と久屋大通（約 113m）より少し狭いが、公園部分が約 70m で芝生地が多く広がりを感じる。（久屋も約 70m）。
・1989～94 年にリフレッシュ事業が行われ、国際都市札幌のシンボルとなっている。芝生広場や花壇が豊富にあり、都心の憩いの場として賑わう。冬の雪まつりや夏のよさこいソーラン祭り、ビアガーデンなどの会

公園の維持管理事例　日比谷公園（東京都）

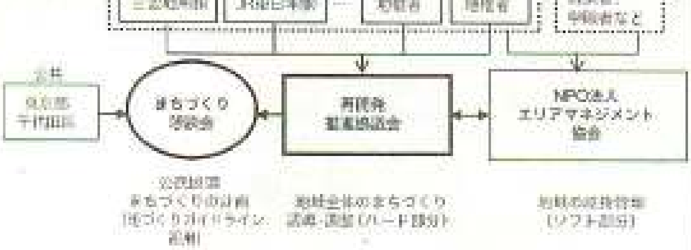
・2003 年に 100 周年事業を実行委員会形式で開催。行政の予算なしで寄付による協賛金と事業者からの協力金のみ。公園利用の制限を緩和し、にぎわいをもたらす様々な事業を民間から募集した。
・ガーデニングショー、オープンカフェ、ウエディング・パーティ、ファッションショー、野外劇、高級有名店の創作屋台など新しい公園利用の取組みが行われた。
・東京都では、この成果をうけ、公園ごとにマネジメントプランを作成している。

公園の維持管理事例　ブライアントパーク（ニューヨーク）

・マンハッタンのオフィス街の真ん中にある 3.9ha の公園。NY 公立図書館と同じ敷地内にある。
・かつては犯罪が多発する公園だったが、周辺住民等が NPO 団体を立ち上げ、NY 市管理当局から公園の再生、管理、運営を請け負う契約を取り付け、公園再生のための改修工事を実施し、大勢の人々を惹きつける公園に再生した。ファッションショーやスケートリンクなども行われ、名物となっている。
・一人用で容易に持ち運びできる椅子が多数置かれており、自由に利用できる。昼食時には近くで働く人々で公園は一杯になる。
・行政からの援助等はなく、NPO 団体がレストラン等のテナント料やイベントによるスポンサー収入により、管理・運営費や人件費を賄っている。

エリアマネジメント事例　大手町・丸の内・有楽町地区

・1950 年代初めに防災・防火活動を行う自治組織から地域管理が始まる。
・1988 年に再開発推進協議会が設立され、地区全体を考慮する計画と開発が始まるようになり、1996 年には公民協働の場としてまちづくり懇談会が設立された。さらに、2002 年には NPO 法人エリアマネジメント協会が設立され、都市づくりから地域管理まで様々な組織が連携し、役割分担して活動している。

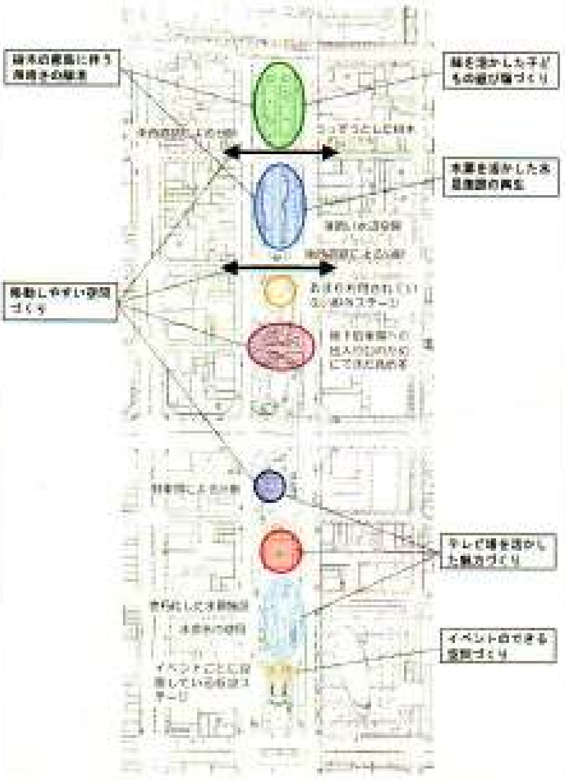


商業系

魅力アップ調査　課題の整理

周辺のまちづくりの中での課題	○名古屋を代表する公園としてのイメージづくり ○都心の憩いの場づくり ○まちとの一体化
ハード面での課題	○樹木の密集に伴う薄暗さの解消 ○水源を活かした水景施設の再生 ○テレビ塔を活かした魅力づくり ○移動しやすい空間づくり ○イベントのできる空間づくり ○緑を活かした子どもの遊び場づくり
ソフト面での課題	○ゾーンごとの特性を活かした公園利用の促進による魅力づくり ○企業との連携による公園利用の促進による魅力づくり（規制緩和の検討） ○市民活動団体等の連携による市民参加による魅力づくり

現況課題図



魅力アップ調査　方策の検討

	項　目	方　策
ハード面の対応	樹木の間引き・伐採	・市民の理解（必要性のPR、市民参加による実態調査） ・樹木の生育環境の改善（土壌改良、舗装の撤去等）
	水景施設の再生	・水源（井戸）の有効活用。ビオトープ等環境への配慮。 ・市民の理解（廃止する場合の代替措置）
	東西道路の廃止	・市民の理解（必要性のPR） ・地元への働きかけ（地元からの要望に対応）
	駐車場の廃止・移設	・市民の理解（必要性のPR）、バス協会との調整 ・代替機能（バス駐車場）の確保
	スムーズな移動の確保（高低差の解消）	・障がい者などの協力を得て移動環境のチェック ・ハード面の整備（デッキ等の立体構造物の構築）
	テレビ塔の活用	・リニューアル工事ができるような条件整備（法的対応） ・民間のノウハウと資金力の活用
	常設ステージの設置	・ステージ利用者のニーズ把握 ・ステージ設置場所の検討
	老朽化した寄付物件の対応	・修復のための資金捻出方法の検討 ・移設等を含めた再生方策についての検討
ソフト面の対応	エリアマネジメント	・関連する組織、企業等の連携による組織の立ち上げ ・自主財源確保方策の検討、既存の活動団体との連携組織の誘導
	市民との協働	・市民団体の育成・支援 ・市民団体ネットワークの形成、既存の活動団体の連携
	企業との連携	・規制緩和による民間資金投入（広告物） ・スポンサー制度の導入によるイベントの展開 ・屋外広告物等の規制緩和の検討

■調査の全体像■

現状

	特性・よい点	問題点
ハード面	・都心で身近な自然に触れることができる（豊かな育った緑、せせらぎ・噴水） ・豊かな水源を利用した循環型の施設（リバーパーク） ・ＴＶ塔が中央にあり、公園を特徴づけるシンボルとなっている。 ・都心の景観形成の軸となり、沿道の施設立地を誘導している。	・樹木の密集により、うっそうとして暗く、見通しが悪い。 ・水景施設をはじめとする施設が老朽化している。さかえ川等は水道水を利用しており環境にやさしくない。 ・駐車場や道路による公園の分断や地下施設により段差が生じている。
ソフト面	・都心の憩いの場として平日昼の利用が多い。 ・休日は様々なイベントや個人コンサートなどに利用されている。 ・豊かな空間を活かした利用（結婚式）が行われている。 ・市民団体による活用が広がっている。(芸術の杜、コンソーシアム) ・久屋大通ではオープンカフェが推進されている。	・利用時間や場所が集中している。休日は桜通以北の利用が少ない。 ・地下街と比べ、地上の公園を通行する人が極めて少ない。 ・イベント空間としての利用勝手が悪く、錦通以北でのイベント利用が少ない。 ・市民団体の利用はまだ限定されている。

課題

周辺のまちづくりの中での課題
- 名古屋を代表する公園としてのイメージづくり
- 都心の憩いの場づくり
- まちとの一体化

ハード面での課題
- 樹木の密集に伴う薄暗さの解消
- 水源を活かした水景施設の再生
- テレビ塔を活かした魅力づくり
- 移動しやすい空間づくり
- イベントのできる空間づくり
- 緑を活かした子どもの遊び場づくり

ソフト面での課題
- ゾーンごとの特性を活かした公園利用の促進による魅力づくり
- 企業との連携による公園利用の促進による魅力づくり（規制緩和の検討）
- 市民活動団体等の連携による、市民参加による魅づくり

先進事例

○札幌大通公園
（雪まつり、よさこいソーラン祭り、ビアガーデン）
官民共同、野外広告物などの規制緩和

○日比谷公園
公園経営（イベント企画、規成緩和）

○ブライアントパーク
（ファッションショー、冬季のスケートリンク）
NPO の管理運営、にぎわいづくり、収益計画

将来像

桜通以北
「都会の安らぎ広場～緑陰のある風景～」
<くつろぐ>
・木漏れ日の下でのランチや読書
・風や水の音を感じながらの散策
<楽しむ>
・新緑の中でのジャズやクラッシックコンサート
・豊かな緑の中でのアートイベント
<ふれあう>
・子どもたちの歓声を聞きながら多世代・多文化交流
・都会の緑や水に住む生き物を観察

桜通～錦通
「観光・交流の広場～ＴＶ塔のある風景～」
<楽しむ>
・イベントに参加して流行や情報をキャッチ
・大道芸を見ながらビアガーデンで乾杯
<ふれあう>
・明るい芝生広場で友人や家族との語らい
・お花畑とテレビ塔を背景に記念撮影
<くつろぐ>
・おしゃれなカフェでゆっくり食事
・夜空を彩るイルミネーションを見ながら散策